

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2	学年	1年	類型	
教科書	世界史A 帝国書院			副教材	なし				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				①	②	③	④	学習のねらい
1 学期	4	1部 世界の一体化と日本	1章 前近代の諸文明 序説 人類の始まり		◎		○	<p>一学期は世界史学習の導入として、世界史の舞台となった自然環境や、日本の歴史と世界の歴史のつながりについて取り上げ、15世紀頃までの前近代の世界史について、近現代史を理解する前提として位置付けて学習します。</p> <p>二学期は15世紀なかばから19世紀後半までの世界の歴史について学習し、さまざまな世界が次第に一体化していき、一つの世界史が形成されていく様相をみていきます。</p> <p>三学期は19世紀後半から今日にいたる世界の歴史について学習します。</p>
			1節 東アジアの文明		○		◎	
			2節 南アジアの文明 3節 東南アジアの文明			○	◎	
	5		4節 西アジア・北アフリカの文明	◎		○		
			5節 ヨーロッパの文明			○	◎	
			”	○		◎		
	6		6節 南北アメリカの文明	◎			○	
			7節 ユーラシアの交流圏	○			◎	
			期末考査	○	○	○	◎	
	7	2章 一体化に向かう世界	1節 繁栄するアジア		○	◎		
			2節 大航海時代と新たな国家の形成		○		◎	
			中間考査	○	○	○	◎	
2 学期	8		3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命		○		◎	<p>近現代史を中心とする世界の歴史について理解します。</p> <p>諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察します。</p> <p>歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。</p>
			2節 自由主義・ナショナリズムの進展			◎	○	
			3節 アジア諸国の動揺		○		◎	
			4節 東アジアの大変動	◎		○		
	9		中間考査	○	○	○	◎	
			2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現代につながる社会の形成		○		◎	
			2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	○			◎	
			”		○	◎		
	10		3節 “民族自決”を求めて		○	◎		
			”		○	◎		
			期末考査	○	○	○	◎	
			4節 世界危機から第二次世界大戦へ			○	◎	
11		”			○	◎		
		”			○	◎		
		”			○	◎		
		”			○	◎		
12		”			○	◎		
		”			○	◎		
		”			○	◎		
		”			○	◎		
3 学期	1		4市場のしくみ 5国民所得と私たちの生活			○	◎	<p>現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。</p>
			6景気変動と物価の動き 7財政のしくみと税金			◎	○	
			8日本の財政の課題 9金融機関のはたらき			○	◎	
	2		10戦後日本経済のあゆみ		◎		○	
			11技術革新の進展と産業構造の変化		○	◎		
			13中小企業の現状と役割		◎		○	
			14食の安全とこれからの日本企業		◎		○	
	3		学年末考査	○	○	○	◎	
			第6章 国際経済の動向と日本の役割 1国際分業と貿易			○	◎	
			”			○	◎	
			”			○	◎	
			”			○	◎	

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：思考・判断・表現 ③：資料活用の技能・表現 ④：知識・理解

◆学習方法のポイント

- 世界史Aでは、世界の文化や生活がどのように成立・発展し、現在の世界を形成してきたのかを学びます。
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。
- 現代の世界は、国々や諸地域が緊密に結び付き、相互の関係を深め、また激しく変化しています。
- 現代世界の基本的な構造とその変動について歴史的観点から把握する必要性が高まってきており、近現代の世界の形成過程について学習していきます。
- 日本の文化や社会の発展に興味を持ち、理解するように努力しましょう。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1つの単元の授業の流れは、次のようになります。
 - ①教科書をよく読みます。
 - ②出てくる基本的用語について、その意味を確認します。
 - ③各単元のテーマについて理解します。
 - ④ノートを用いて内容を確認します。
- ノートは、板書に加えて口頭で示された重要ポイントも記し、工夫された「自分のノート」を作りましょう。
- 統計資料や表・グラフを読み解く力を身につけるために、作業学習も行います。
- ワークブックを用いて復習を行います。
- 授業開始の1分前には着席をして、教科書・ノート等の授業準備をするように習慣づけてください。
- 常に「なぜ？」という問題意識を持ち、探求的な態度で取り組みましょう。

【家庭学習】

- 世界史は決して机上の空論ではありません。生きた学問です。
 - 普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことが大事です。

【定期考査】

- 教科書・ノートを読み直し、授業内容を確認しましょう。
- ワークブックを利用して模擬問題を解く練習をしましょう。
- 基本的な用語はその意味を把握し、正確に書けるように訓練しましょう。
- 特に漢字は正確に書くことを心掛けましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用の技能・表現 ④知識・理解の四つの観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1 学期	単元テスト、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均